

日本グループ・ダイナミックス学会
第 68 回大会プログラム

立命館大学（オンライン開催）
2022 年 9 月 17 日（土）・9 月 18 日（日）

大会タイムスケジュール

大会1日目(9月17日 土曜日)

	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
メイン ルーム					総会		常任理事会企画 シンポジウム					オンライン 懇親会	
ブレイクアウト ルーム1				ショート スピーチ1 [態度]					P1-1 P1-3	P2-1 P2-3			
ブレイクアウト ルーム2				ショート スピーチ2 [コミュニケーション]					ポスター1 [インタラクティブあり]	ポスター2 [インタラクティブあり]			
ブレイクアウト ルーム3					ワークショップ								
									P1-2 P1-4	P2-2 P2-4			
										休憩室			

大会2日目(9月18日 日曜日)

	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
メイン ルーム			大会準備委員会企画 特別 講演	シンポジウム	ランチタイム 交流会								
ブレイクアウト ルーム1						English Session		ロングスピーチ1 [ウェルネス]		ショート スピーチ5 [コミュニティ]			
ブレイクアウト ルーム2						ショート スピーチ3 [教育]	ショート スピーチ4 [災害復興]		ロングスピーチ2 [イノベーション]				
ブレイクアウト ルーム3													
										休憩室			

プログラム | 日本グループ・ダイナミックス学会 第68回大会

大会準備委員会企画特別講演 …………… (1)

大会準備委員会企画シンポジウム …………… (2)

常任理事会企画シンポジウム …………… (2)

ワークショップ …………… (3)

ロングスピーチ …………… (4)

ショートスピーチ …………… (5)

English Session …………… (10)

ポスター …………… (11)

大会準備委員会企画特別講演

物語の創作力と研究法の刷新：ソーシャル・フィクションの方法 1

司 会 立命館大学
講演者 社会学者・作家

山口 洋典
Patricia Leavy

大会準備委員会企画シンポジウム

実験・実践のリアリティと社会のアクチュアリティ：

再現可能な一般性の発見と個別性からの普遍性の追求のあいだで 2

企画者・司会	立命館大学	山口 洋典
話題提供者	京都大学	矢守 克也
話題提供者	関西医科大学	鮫島 輝美
話題提供者	社会学者・作家	Patricia Leavy

常任理事会企画シンポジウム

コラボ・リクエストのこれまでとこれから 3

話題提供者	合同会社 SAT 研究所	榊 敏朗
話題提供者	BMDesign 研究所	永合 由美子
話題提供者	東京女子大学	正木 郁太郎
指定討論者	立正大学	西田 公昭
司 会	名古屋大学	五十嵐 祐

ワークショップ

WS 9:30～11:30

社会的ジレンマと道徳ジレンマ：忌避施設をめぐる「地元住民こそ決定者」に関する多角的検証 …………… 4

企画者・話題提供者	関西学院大学	野波 寛
指定討論者	東北大学	青木 俊明
話題提供者	関東学院大学	大友 章司
話題提供者	中部大学	坂本 剛
話題提供者	東北大学	大場 健太郎
話題提供者	名桜大学	田代 豊

ロングスピーチ 1 ウェルネス

座長：矢守 克也・清水 佑輔

L1-1 14:35～15:15

エイジズムが高齢者に及ぼす影響：若者への態度と高齢者の精神的健康に着目して …………… 5

東京大学, 日本学術振興会

○清水 佑輔

SOMPO ホールディングス株式会社

鈴木 雅

合同会社 SAT 研究所

畠 由佳子

合同会社 SAT 研究所

榊 敏朗

L1-2 15:20～16:00

自粛のグループ・ダイナミックス …………… 9

京都大学防災研究所

○矢守 克也

ロングスピーチ 2 イノベーション

座長：宮本 匠・静木 銀蔵

L2-1 15:50～16:30

中小企業における理想の組織内コミュニケーション構築のためのワークショップ手法の開発と実践 …………… 13

京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程

○静木 銀蔵

京都大学大学院人間・環境学研究科

永田 素彦

L2-2 16:35～17:15

制度化の弊害を解消するノマドボランティア …………… 17

兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科博士後期課程

○頼政 良太

大阪大学大学院人間科学研究科准教授

宮本 匠

ショートスピーチ1 態度

座長：鮫島 輝美・山岡 重行

S1-1 10:35～10:50

犯罪者イメージと犯罪者に対する態度の関連

-温かさ-能力ステレオタイプと非人間化の観点から- 21

広島大学大学院人間社会科学研究科

○池谷 彩希

広島大学大学院人間社会科学研究科

坂田 桐子

S1-2 10:55～11:10

迷惑行為者の感情は行為の許容度に影響するのだろうか? 23

聖徳大学心理・福祉学部心理学科

○山岡 重行

S1-3 11:15～11:30

反社会的認知情動行動リスク要因と対人環境要因を用いた生徒指導事案の自動評価システムの構築 25

岐阜大学

○吉澤 寛之

岐阜大学

酒井 翔

岐阜大学

松下 光次郎

岐阜大学

笹竹 佑太

岐阜聖徳学園大学

吉田 琢哉

久留米大学

浅野 良輔

ショートスピーチ 2 コミュニケーション

座長：森 直久・蔵永 瞳

S2-1 10:35～10:50

集団間感情としての感謝：代理的感謝に関する基礎的検討 27
滋賀大学 ○蔵永 瞳

S2-2 10:55～11:10

「アート行為」ワークショップがデザイン経験者と非美術経験者の現代アートに対するイメージに与える影響 ... 29
武蔵野美術大学 ○楊 榛

S2-3 11:15～11:30

サーバントリーダーシップがフォロワーの職場孤独感に与える影響 31
九州大学大学院人間環境学府 ○斬 佳穎
九州大学大学院人間環境学研究院 池田 浩

ショートスピーチ3 教育

座長：加藤 謙介・小川 恒夫

S3-1 13:20～13:35

- 新有権者の争点学習動機と教科書フレーム 33
東海大学 文化社会学部 心理・社会学科 ○小川 恒夫

S3-2 13:40～13:55

- インクルーシブ教育に対する認識についての日米英豪比較 35
立教大学 ○前田 楓
大阪公立大学 橋本 博文
久留米大学・高知大学 佐藤 剛介

S3-3 14:00～14:15

- 動物介在教育の展開過程に関する予備的考察——特別支援学級における実践事例を踏まえて—— 37
九州保健福祉大学 臨床心理学部 ○加藤 謙介

ショートスピーチ4 災害復興

座長：宮本 匠・永田 素彦

S4-1 14:35～14:50

東日本大震災における「復興」の変遷 ～岩手県野田村を対象としたローカル紙分析を通して～ …… 39

京都大学大学院人間・環境学研究科

○坪井 祐樹

京都大学大学院人間・環境学研究科

永田 素彦

S4-2 14:55～15:10

災害後の仮設住宅コミュニティをめぐる研究動向の変遷 —関連文献の内容分析を通して— …… 41

京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程

○木野村 隆宏

京都大学人間・環境学研究科

永田 素彦

S4-3 15:15～15:30

東日本大震災の復興過程の分析—宮城県気仙沼市唐桑半島での復興曲線インタビューから— …… 43

大阪大学大学院人間科学研究科

○倉田 和佳

大阪大学大学院人間科学研究科

宮本 匠

ショートスピーチ5 コミュニティ

座長：加藤 謙介・安藤 香織

S5-1 16:50～17:05

環境問題に関する会話は何に影響されるのか —多元的無知の観点からの検討 45

奈良女子大学

○安藤 香織

北海道大学

大沼 進

京都先端科学大学

神原 歩

慶應義塾大学

杉浦 淳吉

同志社大学

金山 英莉花

奈良女子大学

張 芸誼

S5-2 17:10～17:25

ウィズコロナ時代の地域づくり 47

京都大学

○永田 素彦

S5-3 17:30～17:45

地域づくりにおける新たな協働的主体の可能性

—三重県尾鷲市向井地区の「民プロジェクト」を事例として— 49

京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程

○内 水吟

京都大学大学院人間・環境学研究科

永田 素彦

English Session

座長：森 直久・村本 由紀子

E-1 13:20～13:35

Coevolution of norm-psychology and cooperation under expected conformity 51

Hokkaido University, Japan Society for the Promotion of Science

○Yuta Kido

Hokkaido University

Masanori Takezawa

E-2 13:40～13:55

Is meritocracy-based bias moderated by generating mechanistic explanation? 53

Osaka City University

○Kaede Matsumura

Osaka Metropolitan University

Hirofumi Hashimoto

E-3 14:00～14:15

How fear of negative evaluation and causal attribution affect paternity leave in Japan 55

Graduate School of Humanities and Sociology, University of Tokyo

○Yui Kato

Graduate School of Humanities and Sociology, University of Tokyo

Yukiko Muramoto

ポスター（インタラクティブあり） ポスター 1

P1-1 15:45～16:15

セルフコンパッション状態誘導法による排斥経験時の報復意図の低下 57
追手門学院大学 ○宮川 裕基

P1-2 15:45～16:15

日常生活場面における他者操作方略の影響の再検討（4）
—依頼なし統制条件の再設定— 59
松山東雲短期大学 ○木川 智美
昭和女子大学 今城 周造

P1-3 16:15～16:45

仮想世界ゲームにおけるネットワーク形成と知識共有過程 61
京都先端科学大学 人文学部 ○有馬 淑子
群馬大学 情報学部 柿本 敏克
群馬大学 情報学部 細野 文雄

P1-4 16:15～16:45

最小相互作用の境界条件を探索する
Big-5 とサポート・ネットワーク
..... 63
立教大学現代心理学部 ○石黒 格

ポスター（インタラクティブあり） ポスター 2

P2-1 16:45～17:15

関係価値は集团的所有権脅威の悪影響を抑制するのか：日韓関係を題材に …………… 65

大阪大学

○井奥 智大

大阪大学

綿村 英一郎

P2-2 16:45～17:15

原因帰属理論による心的機能の認知の検討 …………… 67

東京大学大学院

○苔米地 飛

東京大学大学院

唐沢 かおり

P2-3 17:15～17:45

経験サンプリング法におけるシグナル送信時刻の無作為化：時間枠に制約されない非層化抽出法の開発 ……… 69

東洋大学, 一般社団法人日本経験サンプリング法協会

○尾崎 由佳

P2-4 17:15～17:45

奄美大島嘉徳海岸護岸計画をめぐる環境葛藤における社会的アイデンティティと道徳的排斥の検討 …………… 71

中部大学

○坂本 剛

関西学院大学

野波 寛

名城大学

田代 豊

関東学院大学

大友 章司

東北大学

青木 俊明

東北大学

大場 健太郎

ポスター（インタラクティブなし）

P3-1	少年法改正前後における特定少年の実名報道への支持	73
	東京大学法学政治学研究科	○向井 智哉
	大阪大学人間科学研究科	綿村 英一郎
P3-2	自己に対する自信と承認欲求がルッキズムに及ぼす影響	75
	岡山大学学術研究院社会文化科学学域	○尾関 美喜
	山口県庁	大野 美咲
P3-3	アンガーマネジメントの受講による労働者の行動選択プロセスの違い、労働者 25 名のインタビュー調査	77
	京都橋大学経営学部	○仙波 亮一
P3-4	オンライン面接において受験者・面接官が重視する点の違い	79
	京都外国語大学, NPO 法人教育テスト研究センター	○稲垣 勉
	流通経済大学, NPO 法人教育テスト研究センター	澤海 崇文
	泉台小学校, NPO 法人教育テスト研究センター	澄川 采加
P3-5	「教員間いじめ」の被経験頻度と「教師観の相違」との関連	81
	奈良国立大学機構奈良教育大学	○出口 拓彦
P3-6	援助行動に伴うコストが行為者の評判にもたらす効果： 恩恵を統制したコストの実験操作を用いた検討	83
	大阪公立大学大学院文学研究科都市文化研究センター	○山本 佳祐
	甲南大学文学部	池上 知子
	大阪公立大学大学院文学研究科	山 祐嗣
P3-7	援助要請の抑制は多元的無知なのか	85
	静岡大学人文社会科学部	○橋本 剛
P3-8	大学生における絵文字を用いたメールが受け手の印象に及ぼす影響	87
	帝京大学文学部心理学科	○飯尾 愛子
P3-9	他者への影響体験想起が与え手の認知に及ぼす影響：日本の場合	89
	慶應義塾大学	○今井 芳昭

P3-10	友人関係における関係流動性と親密性との関連—日本と中国による比較—	91
	広島大学大学院人間社会科学研究科	○賈 琴
	愛知教育大学教育学部	安藤 久美子
	広島大学大学院人間社会科学研究科	中島 健一郎
P3-11	約束と授業への遅刻の是認及び否認と集団適応	93
	名古屋女子大学	○竹内 正裕
P3-12	大学生の孤独感に影響する要因の検討	95
	愛媛大学	○戸谷 彰宏
	広島文教大学	阿部 夏希
	広島大学, 日本学術振興会特別研究員	李 受珉
	金沢工業大学	加藤 樹里
	同志社大学	神原 広平
	富山大学	重松 潤
	西九州大学短期大学部	清水 陽香
	広島大学	中島 健一郎
P3-13	入れ子の視点によるいじめ理解：いじめ定義の集団力学的再考	97
	熊本大学大学院教育学研究科	○ハッ塚 一郎
P3-14	防災行動への新たなアプローチに向けて：防災に関する近年の日本研究の体系的レビューから	99
	京都大学防災研究所, 日本学術振興会, デラウェア大学災害研究センター	○大門 大朗
	福山市立大学都市経営学部	宮前 良平
	大阪大学大学院人間科学研究科	王 文潔
P3-15	暗黙理論が教師のフィードバックに与える影響 —学生の成績不振状況の解釈に着目して—	101
	東洋大学大学院	○コウ ビョウ
	東洋大学	尾崎 由佳
P3-16	東京オリンピック大会とナショナル・アイデンティティ	103
	文教大学情報学部	○佐久間 勲
	文教大学情報学部	日吉 昭彦

P3-17

ジェンダーに関するダイバーシティ・イデオロギーの知覚と従業員の職務態度との関連の検討 ……………105

広島大学大学院人間社会科学研究科

○坂田 桐子

広島大学大学院人間社会科学研究科

服部 典利子

広島大学ダイバーシティ研究センター

大池 真知子

広島大学大学院人間社会科学研究科

森永 康子

P3-18

障害者支援施設における書道教室のアクションリサーチ：

障害者の主体的な変化を促す「矛盾」の役割と書道の意味 ……………107

札幌学院大学

○河合 直樹

抄録

日本グループ・ダイナミクス学会
第68回大会

1

大会準備委員会企画特別講演

2

大会準備委員会企画シンポジウム

3

常任理事会企画シンポジウム

4

ワークショップ

物語の創作力と研究法の刷新 ソーシャル・フィクションの方法

講演者 Patricia Leavy (社会学者・作家)

司会 山口 洋典 (立命館大学)

今回、特別講演では「ソーシャル・フィクション (Social Fiction)」という新たな研究方法を取り上げる。ソーシャル・フィクションとは、研究の過程で得た成果を架空のキャラクターの人生に紐付け、現実的なシナリオとして小説化し、研究者による実践を当事者にも響く口伝としてまとめあげるものである。特別講演で招聘するパトリシア・レヴィー(編)『Handbook of Arts-Based Research』(2017)によれば「学者と一般人のあいだの記述表現の分断を橋渡しする (bridge the academic-public writing divide)」(pp.514-515)もの、と位置づけられている。

COVID-19 の名のとおり、2019年12月8日に中国・武漢にて初めて確認されて以来、一定の時間が経過するものの、新型コロナウイルス感染症は未だ終息の見通しが立たない状況にある。そして、常に生々流転している現実の中で、最早「ニューノーマルとは言わないニューノーマル」な状態もたらされている。そうした中、相次ぐ巨大災害、あらゆる機関でのSDGsの推進、ダイバーシティ&インクルージョンが重要視される中でのマイクロアグレッションやアンコンシャスバイアスの顕在化、人口減少の中で求められる地域経営、頻発する医療事故、これら現在進行形の社会課題は枚挙にいとまがない。

一方、2005年3月22日に発行された「[ぐるだいニュース28号](#)」で報告されている雑誌改革にまつわる議論に象徴されるように、日本グループ・ダイナミクス学会では、実験的手法をもとにした行動科学をもとにした研究に加えて、当事者・実践家と共に事例・フィールドを扱った多様な研究が取り扱われるようになってきていることが確認されている。換言すれば、極めて多元的・重層的に社会が扱われ、語られる学会として、長い歴史を有している。そこで今回、「ソーシャル・フィクション」という新たな潮流に触れることを通して、実験か実践かの二分法を超えて、現代に生み出しうる研究のあり方について幅広く検討する機会としたい。

<講演者プロフィール>

パトリシア・レヴィー博士は、国際的に著名な社会学者・ベストセラー作家。アートベース・リサーチの世界的な推進者として広く知られている。レヴィー博士は「ソーシャル・フィクション」という用語を生みだし、物語を研究手法として学際的に正統化を図る世界的な奮闘を牽引してきた。40冊以上の本を出版し、ノンフィクション、フィクションの両方で商業的、批評的成功を収め、作品は多くの言語に翻訳されている。最新作は『Re/Invention: Methods of Social Fiction』[物語の創作力と研究法の刷新：ソーシャル・フィクションの方法]。既刊により数十の書籍賞を受賞。近年では『Handbook of Arts-Based Research』[アートベース・リサーチハンドブック]が2018年USAベストブック賞(学術・教育書部門)、『Method Meets Art』[研究法がアートに出会うとき]が2021年USAベストブック賞(芸術部門)、短編小説集『Celestial Bodies: The Tess Lee and Jack Miller Novels』[輝くものたち：テス・リーとジャック・ミラーの物語]が2022年ファイアーバードブック賞(ロマンス部門)を受賞した。一連の業績に対して、ニューイングランド社会学会(NESA)、アメリカ創造学会(ACA)、アメリカ教育研究学会(AERA)、国際質的研究学会(ICQI)、全米美術教育協会(NAEF)からも賞を受賞している。2018年にはアメリカ女性殿堂から表彰され、ニューヨーク州立大学(SUNY)ニューポルツ校が「アートと社会正義のためのパトリシア・レヴィー賞」を設立した。公式ウェブサイトは www.patricialeavy.com。

※同時通訳あり。本企画は、JSPS 科研費 18K02742、19K00723 に関連する企画です。
(進行補佐：村山かなえ)

実験・実践のリアリティと社会のアクチュアリティ

再現可能な一般性の発見と個別性からの普遍性の追求のあいだで

企画者 山口 洋典 (立命館大学)
話題提供者 鮫島 輝美 (関西医科大学)
話題提供者 矢守 克也 (京都大学)
話題提供者 Patricia Leavy (社会学者・作家)
司 会 山口 洋典 (立命館大学)

2021年度の年次大会終了後から偶数月の第2火曜日にオンラインサロンを開催し、過去の「実験社会心理学研究」を講読する機会を設けてきた。参加者どうしの感想交流と素朴な関心の共有の中で、例えば「社会心理学が社会を失うと認知心理学化する」、「そもそも日常生活が実験室化しているような時代に生きている」、これらグループ・ダイナミクスという学問が置かれた環境への認識に対する問題提起の他、「心理学で人間を相手にするなら身体・環境・言語・発達の4つの観点が欠かせないと思われるが、環境と言語は社会構成主義が取り戻してくれたものの身体と発達がないのでは？」さらには「環境が人工的になってきているので、ゲームやバーチャルリアリティが日常になっている今、テクノロジー化された日常では実験室研究もありうるのでは？」といった問いの共有、さらには今後の展望として「ダイナミックな研究ではなくエレガントな研究を」といった語りが得られた。

今回、特別講演を受けて「実験・実践のリアリティと社会のアクチュアリティ」と題したシンポジウムを実施する。精神科医の木村敏によれば、アクチュアリティとは客観的な現実としてのリアリティと区別することのできる「活在性」がある主観的な現実とされている。社会と現実に向き合う学問のこれまでを見つめ、これからの見据える上で、副題に前掲のサロンにて浮上した論点を掲げつつ、大会準備委員会のメンバーが話題提供を行うが、オンライン開催ならではのダイナミックな知の交歓の場となることを期待している。

矢守は、「フィクション」としての実験の魅力について報告する。すぐれた「フィクション」がそうであるように、実験研究が、「平均値」に対する「極限值」の論理に立脚して、あたかも顕微鏡や拡大鏡のように働いて卓抜な例証(exemplification)の機能を果たすとき、それは、私たちの活動を根底から支えている自明性の解明やそこからの解放にとって強力な研究かつ実践ツールとなる。この意味で、実験がどこで行われているかは副次的なことである。ミルグラムのアイヒマン実験、ダンドレードやコスミデスの認知機能実験など、すぐれた実験研究と、たとえば、災害経験を川柳調の短文、ゲーム教材、小説といった一定のフォーム(テンプレート)を使って当事者が表現する活動との間には、強力な「例証」性という共通項がある。それらはいずれも、「フィクション」(創作)という回路を経ることで、私たちが生きるリアリティ本体がどのように創作されているかを印象的な形で教えてくれる。

鮫島は、即興演劇を道具として活用している教育実践を紹介する。医療専門職養成課程において、いかに学内の演習で知識・技術の準備性を整え、実習現場で実践できるか、大きな課題となっている。ある意味、実験室のように環境が管理された状態で行う技術演習をいくら積み重ねたとしても、複雑現象として常に変化している個別性の高い対象(患者や家族)に直接関わる医療現場においては、ギャップが大きく、学生の緊張度も高く、「演習でできたことが実習ではできない」という現実がある。こうした状況を踏まえ、専門職におけるコミュニケーションの演習授業に即興演劇のワークショップを取り入れた。具体的には、「市民健康相談」という場面において、相談者、専門職、妖精(観察者)という3役を順番に演じる取り組みである。これは、実践におけるアクチュアリティを即興演劇という「フィクション」を通じて他者に「なる」体験をすることで、社会におけるリアリティに接近し、学生の準備性を整えるための試みと考える。

※同時通訳あり。本企画は、JSPS 科研費 18K02742、19K00723 に関連する企画です。
(進行補佐：村山かなえ)

コラボ・リクエストのこれまでとこれから

企画者 日本グループ・ダイナミックス学会常任理事会
話題提供者 榊 敏朗（合同会社 SAT 研究所）
話題提供者 永合 由美子（BMDesign 研究所）
話題提供者 正木 郁太郎（東京女子大学）
指定討論者 西田 公昭（立正大学）
司 会 五十嵐 祐（名古屋大学）

2018年から始まったコラボ・リクエスト企画は、学会での発表の機会を通じて、心理学の専門的な知見をビジネスや課題解決に活かしたいというニーズを持つ企業やNPOなどのクライアント（団体）と、実社会に根ざした研究への志向性を持つ社会心理学の研究者とのマッチングを促進し、産学連携をベースとした実践知としての共同研究を創発しようとするユニークな試みである。これまでに多くのクライアントからの参加があり、共同研究としてその成果が結実した事例もある一方、残念ながらマッチングに至らなかった事例もある。クライアントと研究者のどちらにとっても、産学連携の潜在ニーズは十分存在するであろうが、多くの研究者にとっては、学術的な関心と産学連携が両立しうるのか、一定の成果を見越した研究計画をマネジメントできるのか、クライアントのリクエストに専門家として十分に応えられるのか、各種の懸念があるのもまた事実である。逆に、クライアントとしては、学会という場でこういった形でのコラボが期待されているのか、肝心のところを掴みきれていないのではという不安もあるだろう。

本企画では、コラボ・リクエスト企画にこれまで参加いただいたクライアントの方々をお招きし、企業との共同研究をアクティブに実践してきた研究者、そしてフロアの参加者とともに、こうした懸念や不安を解消するためのヒントを探り、社会心理学のフィールドにおける産学連携のあるべき姿について議論していきたい。榊氏にはコラボ・リクエスト企画におけるマッチング成立の事例について、永合氏には不成立の事例について紹介いただき、それぞれクライアントの立場から見たコラボ・リクエスト企画の意義と、今後の課題・期待についてお話しいただく。正木氏には、社会心理学者として多様な企業との共同研究に携わってきたご自身の経験を踏まえ、クライアントと研究者のニーズをどのようにすり合わせ、実践知を達成していくのか、その萌芽となるアイデアを共有していただく。西田氏には、コラボ・リクエスト企画の発案者として、クライアント・研究者双方へのサジェスションを含めた指定討論をお願いする。

社会的ジレンマと道徳ジレンマ

忌避施設をめぐる「地元住民こそ決定者」に関する多角的検証

企画者 野波寛（関西学院大学）

話題提供者 大友章司（関東学院大学）・坂本剛（中部大学）・野波寛（関西学院大学）・
大場健太郎（東北大学）・田代豊（名桜大学）

指定討論者 青木俊明（東北大学）

廃棄物処理場や発電所などの公共施設は、個々人にとって公益達成に必要とは認められるが、一方で自分の近隣での立地はお断りとも評価され、忌避施設と呼称される。

忌避施設の立地が焦点化した場面では、負担の集中する立地地域の住民（地元住民）が当事者と位置づけられ、行政や専門家といったその他のアクターよりも地元住民の決定権（正当性）のみが、最も高く評価される傾向が頻発する。当事者の優位的正当化と呼ぶこの判断傾向は、多くの人々から「当然のこと」と自明視されやすい。しかし、地元住民に対する優位化を人々が自明視すれば、忌避施設とされる様々な公共施設は地元住民からの拒否の連鎖によって立地が不可能となり、結果として公益の喪失という共貧事態が生じ得る。つまり、忌避施設の問題は社会的ジレンマの構造をもつため、この場面で生じる当事者の優位的正当化は、合理的な判断とは言えないのである。

合理的ではない側面があるにもかかわらず、当事者を優位化する判断が自明視されやすい背景として、この判断が個人の理性的かつ統制的な思慮からではなく、直観的で非統制的な道徳判断の一種として生み出される過程があると推測される。忌避施設の多くは、少数者への負担集中と引き換えに多数者の公益が成立するコンフリクト構造をもち、これはトロッコ問題に代表される「多数者と少数者いずれを救うべきか」という道徳ジレンマと同様な構造とも言える。

筆者らは、忌避施設の立地が焦点化した場面を道徳ジレンマの一種ととらえ、公的決定場面における個々人の判断に、道徳的な価値観が影響を及ぼす可能性を検証してきた。

本WSでは、忌避施設をめぐる当事者の優位化の発生過程とその抑制可能性について、仮想場面法による実験的検証、フィールド調査にもとづく質的検討、参加型ゲーミング、ならびにfMRIによる脳科学的検証など、多角的な手法で明らかになった成果を報告する。社会的ジレンマ・合意形成・モラル研究などに関心をもつ方々にご参加いただき、ご意見を頂戴できれば幸いである。

日本グループ・ダイナミックス学会第 68 回大会
協賛団体ご芳名

株式会社 北大路書房

株式会社 ナカニシヤ出版

(敬称略 五十音順)

本大会を開催するにあたり、上記各団体様より多大なご支援をいただきました。
ここにご芳名を記して、心から感謝の意を表します。

2022 年 8 月
日本グループ・ダイナミックス学会第 68 回大会
大会準備委員長・事務局長 山口 洋典

日本グループ・ダイナミックス学会

第 68 回大会準備委員会

委員長・事務局長 山口 洋典 (立命館大学)

委員

加藤 謙介 (九州保健福祉大学)

鮫島 輝美 (関西医科大学)

宮本 匠 (大阪大学)

森 直久 (札幌学院大学)

矢守 克也 (京都大学)

日本グループ・ダイナミックス学会 第 68 回大会プログラム

発行日 2022 年 8 月

発行者 日本グループ・ダイナミックス学会第 68 回大会準備委員会

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

立命館大学共通教育推進機構 山口 洋典

E-mail: gucci@fc.ritsumei.ac.jp

北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8
☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393
https://www.kitaohji.com(価格税込)

パーソナリティのHファクター

—自己中心的で、欺瞞的で、食欲な人たち— K. リー, M. C. アシュトン著 小塩真司監訳 四六・208頁・定価2640円 自分を利するために計算高く他人を操る、特別な地位や権利を得るに値すると自惚れている…… Hファクターの低い人々。パーソナリティのHEXACOモデルを発案した心理学者たちが、彼らに特徴的な性格傾向や行動様式を解説する。

感情制御ハンドブック

—基礎から応用そして実践へ— 有光興記監修 飯田沙依亜, 柳原良太, 手塚洋介編著 A5上製・432頁・定価6160円 本邦で展開されてきた多彩な感情制御研究を一望できる書。基礎理論に始まり、社会・人格・認知・発達・臨床・教育、さらには経済・司法・労働までの各分野における最新知見を8部31章21トピックで紹介。

記憶現象の心理学

—日常の不思議な体験を探る— A・M・クリアリー, B・L・シュワルツ編 清水寛のほか訳 A5・560頁・定価6380円 デジャヴ現象や「喉まで出かかっているのに出てこない」状態等、人間の記憶の不思議な現象に焦点を当て、逆照射的に記憶のメカニズムに接近。これまでの研究知見に疑問を呈する。

すばらしきアカデミックワールド

—オモシロ論文ではじめる心理学研究— 越智啓太著 四六・296頁・定価2420円 絵文字を使うやつはエロい？ 連続殺人犯は目だけでわかる？ 素朴な疑問を大真面目に追求した、実在の論文を厳選。人間の行動を科学的に明らかにする心理学本来の面白さを伝えつつ、各論文の信頼性や再現性、関連研究を解説する。怪しい論文にだまされない留意点も収録。

非認知能力

—概念・測定と教育の可能性— 小塩真司編著 A5・320頁・定価2860円 「人間力」「やりぬく力」など漠然とした言葉に抱えず、心理学の知見から明快に論じる。誠実性、グリット、好奇心、自己制御、楽観性、レジリエンス、マインドフルネスなど関連する15の心理特性を取りあげ、教育や保育の現場でそれらを育む可能性を展望する。

モビリティ・イノベーションの社会的受容

—技術から人へ、人から技術へ— 上出寛子編著 A5・276頁・定価3520円 自動運転やMaaSをはじめ、移動支援の技術の進歩と人・社会の調和について、心理学、哲学、交通工学などから分析、学際的な視座を提供する。社会的受容における多様性、信頼や人々の幸福との関係についても議論する。

未来思考の心理学

—予測・計画・達成する心のメカニズム— G. エッティンゲンほか編 後藤崇志, 日道俊之, 小宮あすか, 楠見 孝監訳 A5上製・720頁・定価11000円 目標実現のための心の仕組みを人に固有の「将来を模索し判断する力」を切り口に解説。認知、社会、教育、健康等の分野にも展開。

Rを使った(全自動)ベイズファクタ分析

—js-STAR_XR+でかんたんベイズ仮説検定— 田中敏, 中野博幸著 A5・244頁・定価3520円 フリーソフトjs-STAR_XRが拡張され、帰無仮説検定の代替案として近年関心が高まるベイズ仮説検定に新たに対応。データ分析から結果の書き方まで懇切にガイド。巻末には半期や全7回の授業用シラバスを取載。

心理学って面白そう！
どんな仕事で活かされている？

シリーズ **心理学と仕事** [全20巻] **完結!** シリーズ 監修 太田信夫
●A5判・148~232頁・定価2200~2530円

- | | | | | |
|-------------|------------|------------|-------------|----------------|
| 1 感覚・知覚心理学 | 2 神経・生理心理学 | 3 認知心理学 | 4 学習心理学 | 5 発達心理学 |
| 6 高齢者心理学 | 7 教育・学校心理学 | 8 臨床心理学 | 9 知能・性格心理学 | 10 社会心理学 |
| 11 産業・組織心理学 | 12 健康心理学 | 13 スポーツ心理学 | 14 福祉心理学 | 15 障害者心理学 |
| 16 司法・犯罪心理学 | 17 環境心理学 | 18 交通心理学 | 19 音響・音楽心理学 | 20 ICT・情報行動心理学 |

心理学概論

◎Wai Cheung な生き方を学ぶ心理学
大坊郁夫編

持続可能性を高め、よく生きるための
心理学入門テキスト。2970円

はじめての発達心理学

◎発達理解への第一歩

古見文一・西尾祐美子編

基礎知識を解説し、Q&Aを交えな
がら発達の謎に迫る。2420円

心理臨床実践 のための心理学

心の専門家養成講座⑤
金井篤子編
公認心理師必携の概論書。2860円

異文化接触の心理学

◎AUCIGS学習モデルで学ぶ文化
の交差と共存 田中共子著
エクササイズを通じたアクティブラー
ニング形式で段階的に学ぶ。2530円

グラウンデッド・ セオリーの構築(第2版)

キャシー・シャーマス著/岡部大祐監訳
論文執筆の多くの事例と内容を盛り
込み詳説した増補版。6050円

なぜあなたは国際誌に
論文を掲載できないのか
◎誰も教えてくれなかった本当に必要なこと
加藤司著
全ての悩める研究者へ。2970円

主体的に学ぶ 発達と教育の心理学

高村和代・安藤史高・小平英志編
教職課程コアカリキュラム対応テキ
スト。課題テストも掲載。2530円

社会的子育ての実現

◎人とつながり社会をつなぐ、保育カ
ウンセリングと保育ソーシャルワーク
藤後悦子監修/柳瀬洋美他編著
支援に必要な知識とは。2640円

医療心理臨床実践

心の専門家養成講座⑥
◎「こころ」と「からだ」「いのち」を支える
森田美弥子・金子一史編
医療分野での心理的支援。3300円

新版 対人コミュニ ケーション入門

藤田依久子著
心理学実験や基本理論を平明に説明
した、好評書の再改訂版。2200円

やってみよう! 実証研究入門

◎心理・行動データの収集・分析
レポーター作成を楽しくもう
古谷嘉一郎・村山綾編 2860円

ファンリテーション とは何か

◎コミュニケーション幻想を超えて
井上義和・牧野智和編著
日本における総決算の書。2640円

教師になる人のための 学校教育心理学

越良子編
学習指導要領の変遷から来し方を学
び行く末を見通す。2970円

家族心理学

◎生涯発達から家族を問う
相良順子編
個人の発達と家族の発達の関わりを
ワークを取り入れ解説。2530円

福祉心理臨床実践

心の専門家養成講座⑨
◎「つながり」の中で「くらし」「いのち」を支える
永田雅子・野村あすか編
福祉における心理支援。3300円

利他行動の促進・抑制

◎評判への関心に基づく検討
河村悠太著
評判と利他行動が社会的規範によっ
て調整される姿を描く。5500円

動かして学ぶ! はじめての テキストマイニング

◎フリーソフトウェアを用いた自由
記述の計量テキスト分析
樋口耕一・中村康則・周景龍著 2420円

ついスマホに頼ってしまう 人のための日本語入門

堀田あけみ・村井宏栄著
作家歴40年のプロと日本語学者が教
える、日本語を書く秘訣。1980円

これからの教職論

◎教職課程コアカリキュラム対応で
基礎から学ぶ
大家まゆみ・本田伊克編
初学者向けに易しく解説。2530円

通常学級で活かす 特別支援教育概論

柏崎秀子編
様々な発達段階の子どもに支援対応す
るための具体的アイデア。2200円

危機への心理的支援

心の専門家養成講座⑪
窪田由紀編
災害、事故、暴力などに遭遇した個人
や集団への支援を解説。3300円

刑事司法制度改革に ついでに法心理学的研究

中田友貴著
種々のハイパスに焦点を当て、法心理
学の立場から提言する。7150円

社会調査のための 計量テキスト分析

樋口耕一著(第2版)
研究事例のレビューを大幅に増補し、
KH Coder 3に対応。3080円

伝わる! ロジカル文章術

◎レポートの質を極める
酒井浩二著
考えを伝えるための作法。1650円

ナカニシヤ出版

TEL 075-723-0111
FAX 075-723-0095

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15
http://www.nakanishiya.co.jp/ (税込価格)